

さりげない安心と感動する制動を



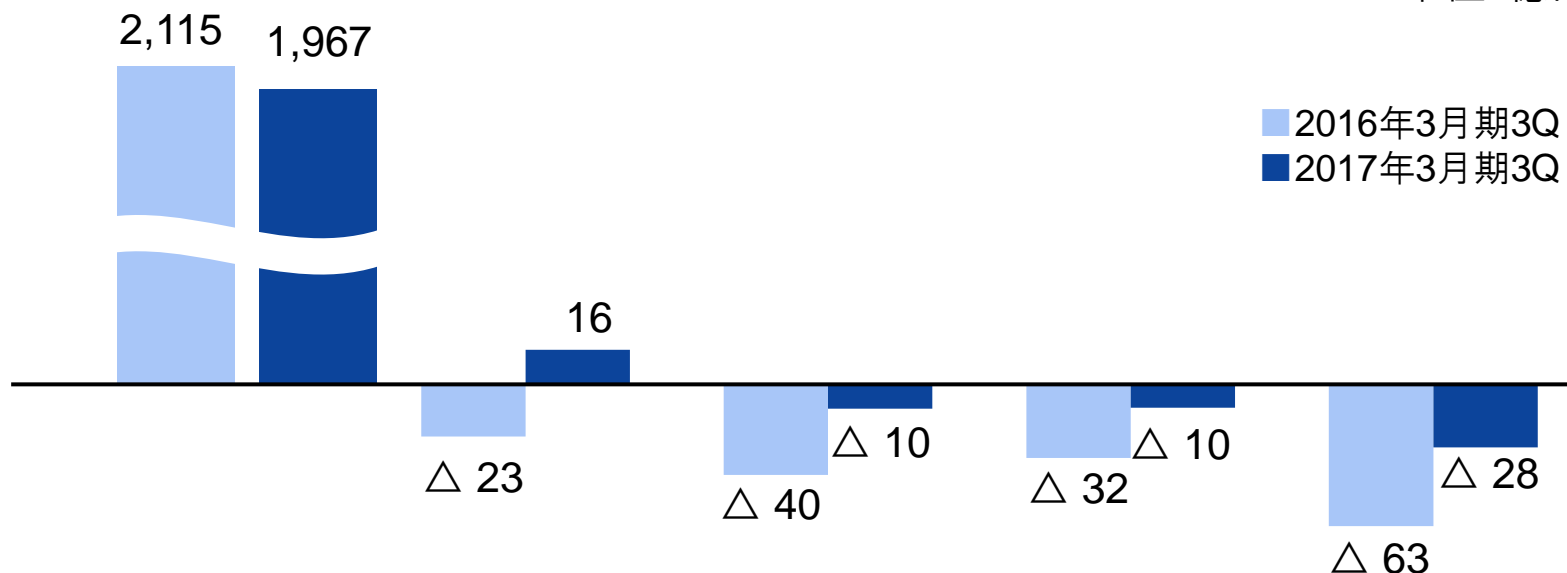
2017年3月期 第3四半期(3Q) 決算説明会資料

2017年2月2日
曙ブレーキ工業株式会社

2017年3月期3Q: 連結業績(対前年同期)

売上高1,967億円、営業利益16億円、四半期純利益△28億円

単位:億円

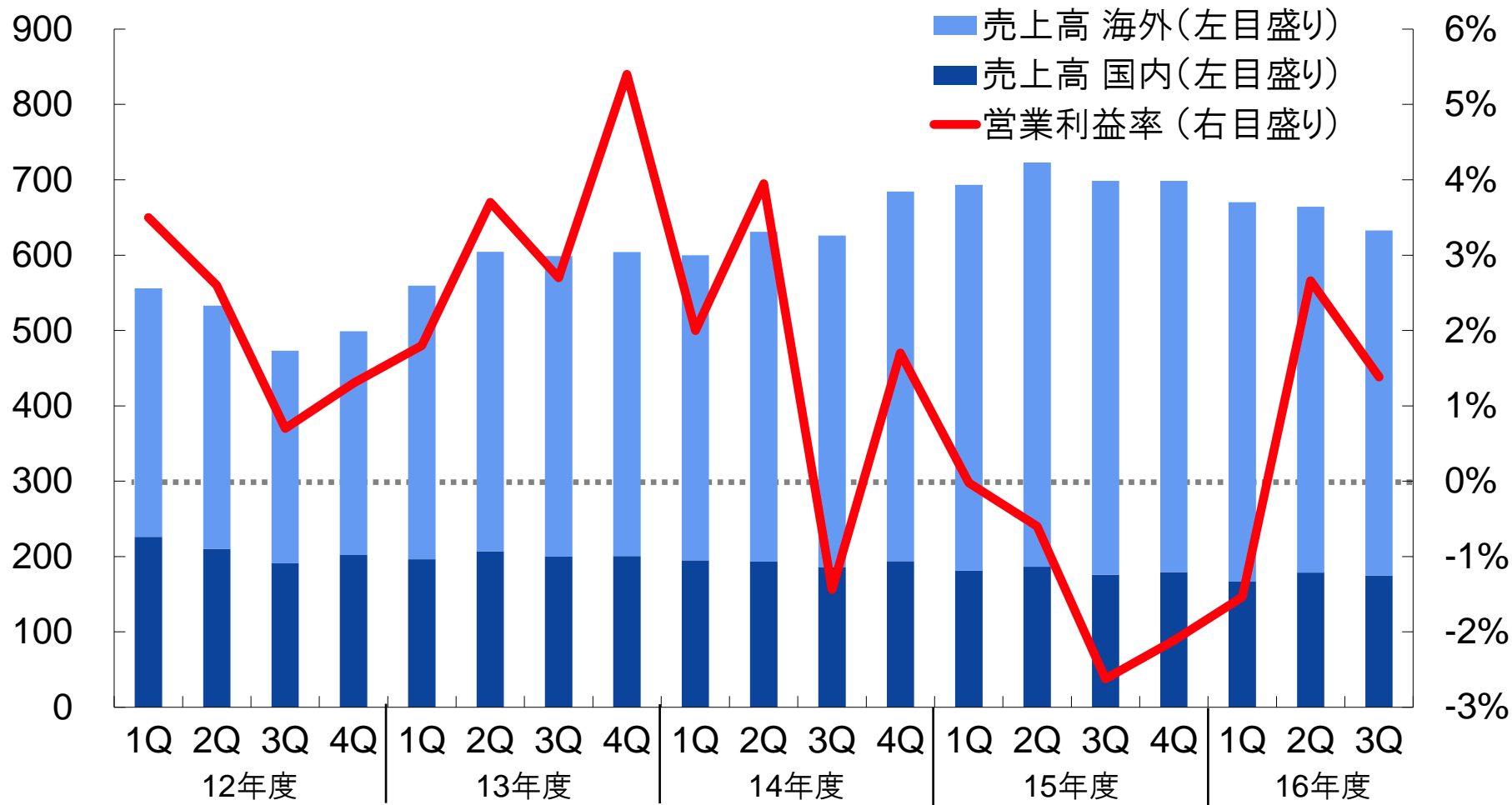


	売上高	営業利益	経常利益	税前三半期純利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
16年3月期3Q	2,115	△23	△40	△32	△63
17年3月期3Q	1,967	16	△10	△10	△28
前年差	△147	+39	+30	+22	+35

2017年3月期3Q: 売上高と営業利益率のトレンド(連結)

北米生産混乱収束に向けて利益率は改善傾向

単位: 億円

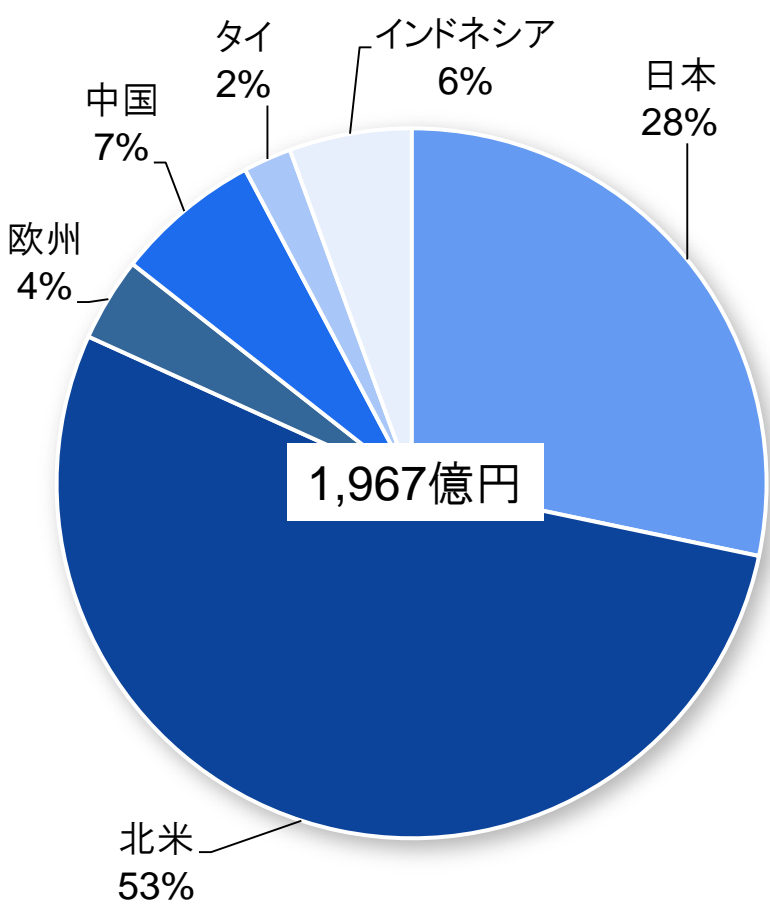


2017年3月期3Q: 売上高 [地域別]

海外比率は全体の72%

<2017年3月期3Q 実績>

単位: 億円

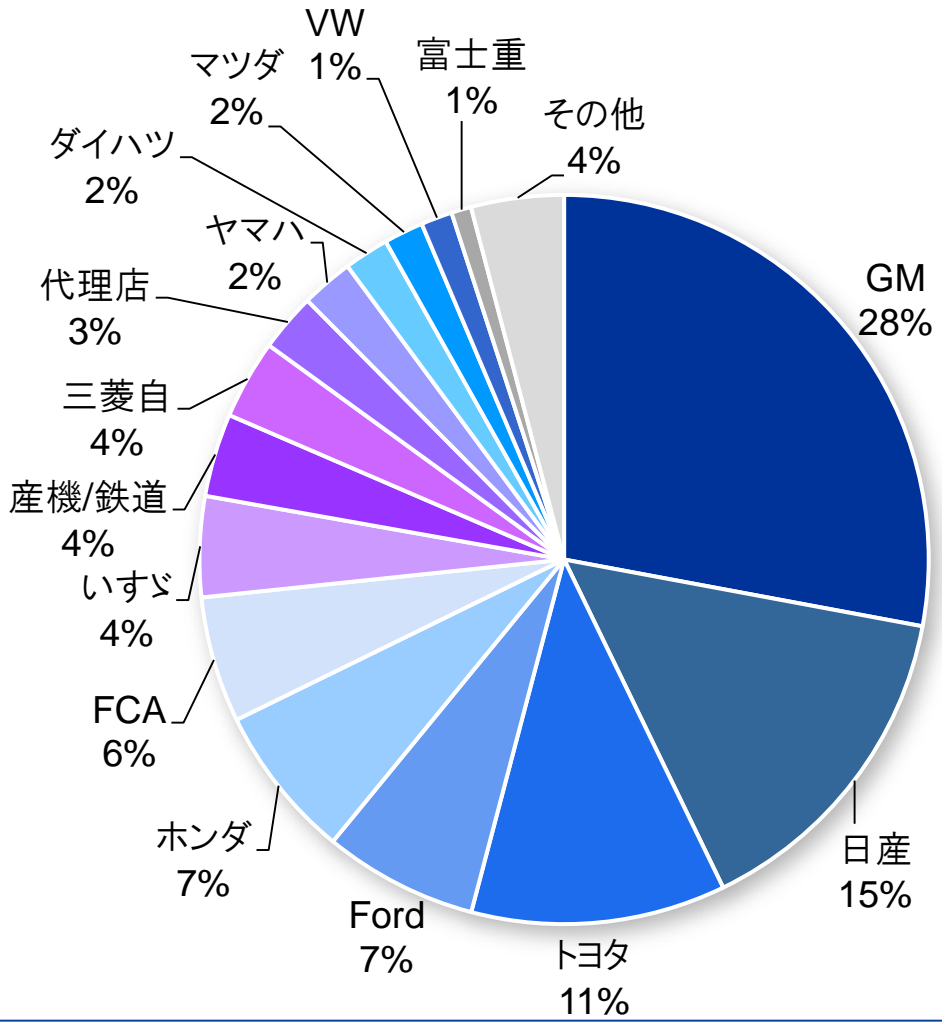


	16/3期 3Q	17/3期 3Q	差	為替 換算 影響
日本	624	605	△19	—
北米	1,258	1,143	△115	△124
欧州	78	82	+3	△11
中国	140	142	+2	△24
タイ	48	47	△1	△7
インドネシア	123	119	△4	△13
アジア計	310	308	△2	△44
小計	2,271	2,137	△133	△180
連結消去	△156	△170	△14	—
合計	2,115	1,967	△147	△180

2017年3月期3Q: 売上高 [お客様別]

GM、日産、トヨタで過半を占める

< 2017年3月期3Q 実績 >



	16/3期 3Q	17/3期 3Q
GM	28%	28%
日産	14%	15%
トヨタ	11%	11%
Ford	7%	7%
ホンダ	6%	7%
FCA(旧Chrysler)	6%	6%
いすゞ	5%	4%
産機/鉄道	4%	4%
三菱自	4%	4%
代理店	3%	3%
その他	12%	11%
合計	100%	100%

2017年3月期3Q: 地域別の状況(対前年同期)

米国の収支改善および日本の合理化効果により連結営業利益改善

単位:億円	売上高			
	16/3期3Q	17/3期3Q	前年差	為替
日本	624	605	△ 19	-
米国	1,253	1,138	△ 115	△ 124
メキシコ	5	5	+0	△ 1
欧州	78	82	+3	△ 11
中国	140	142	+2	△ 24
タイ	48	47	△ 1	△ 7
インドネシア	123	119	△ 4	△ 13
アジア	310	308	△ 2	△ 44
連結消去	△ 156	△ 170	△ 14	-
合計	2,115	1,967	△ 147	△ 180

営業利益			
16/3期3Q	17/3期3Q	前年差	為替
26	31	+5	-
△ 75	△ 36	+39	+4
△ 2	△ 3	△ 0	+0
△ 6	△ 9	△ 3	+1
15	18	+3	△ 3
4	3	△ 1	△ 0
12	10	△ 2	△ 1
32	32	△ 0	△ 5
3	2	△ 1	-
△ 23	16	39	1

為替 USD:120.9→109.1、EUR:134.0→118.4、CNY:19.3→16.5、THB:3.6→3.1、IDR:0.0091→0.0082

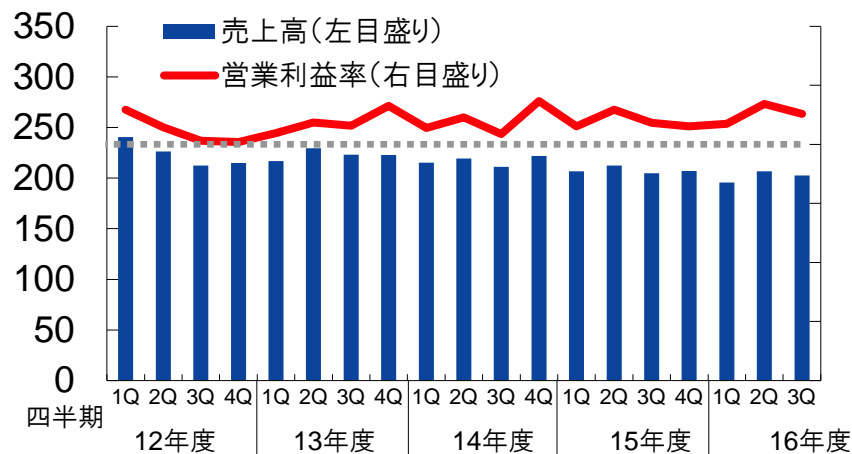
<現地通貨ベース>	売上高		
	16/3期3Q	17/3期3Q	前年差
米国: \$ mil.	1,037	1,044	+7
メキシコ: \$ mil.	4	5	+1
欧州: EUR mil.	58	69	+11
中国: CNY mil.	724	859	+135
タイ: THB mil.	1,332	1,518	+186
インドネシア: IDR bil.	1,349	1,452	+103

営業利益		
16/3期3Q	17/3期3Q	前年差
△ 62	△ 33	+29
△ 2	△ 3	△ 1
△ 5	△ 8	△ 3
80	110	+30
123	105	△ 18
132	125	△ 7

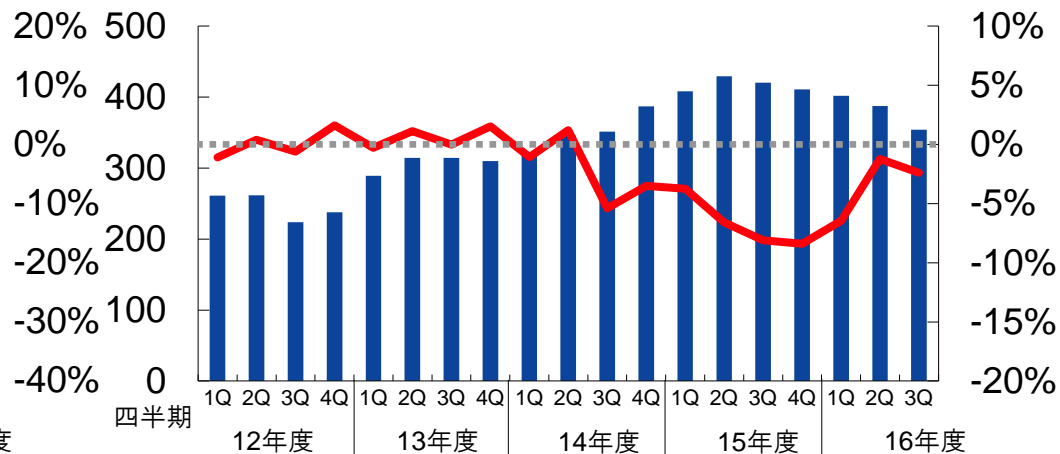
2017年3月期3Q: 売上高と営業利益率のトレンド(地域別)

四半期毎の売上高と営業利益率

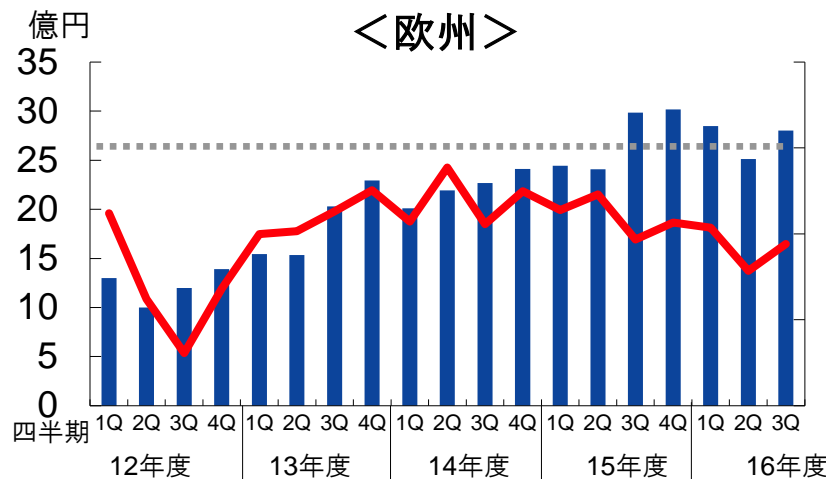
億円 <日本>



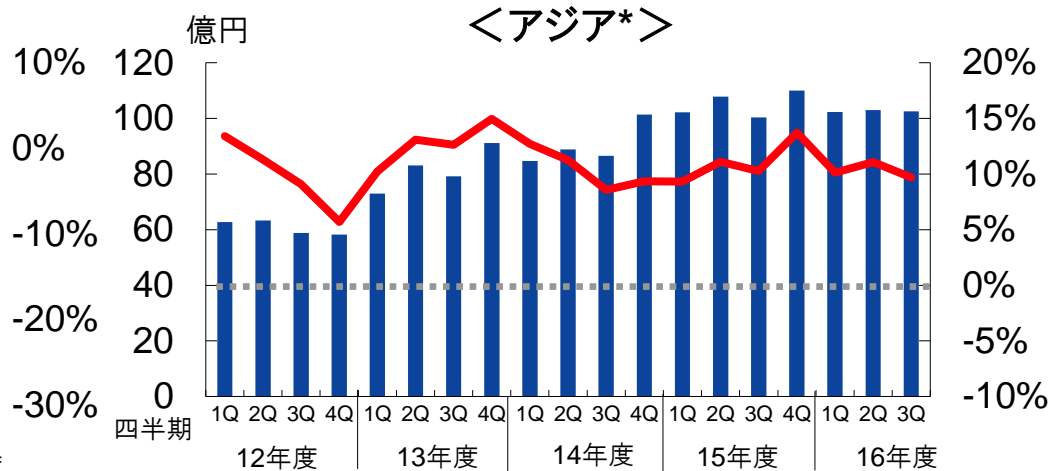
億円 <北米>



億円 <欧州>



億円 <アジア*>

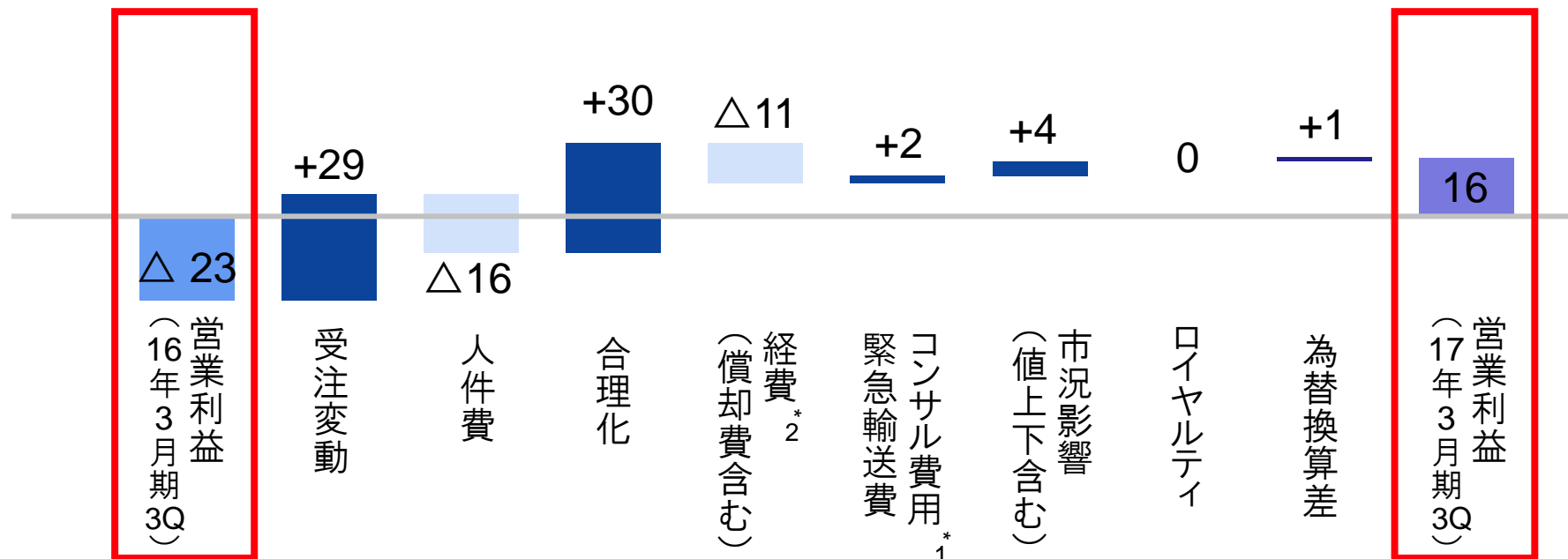


*アジアについては、従来アジア内で消去される金額を減算し表示しておりましたが、決算短信セグメント情報に合わせ単純合算の表示に変更しております。

2017年3月期3Q: 営業利益増減分析(対前年同期)

米国の収支改善および日本の合理化効果により連結営業利益改善

単位: 億円



日本	26	△ 5	+2	+11	+3		+3	△ 10		31
米国	△ 75	+18	△ 12	+16	△ 5	+2	+2	+12	+4	△ 36
メキシコ	△ 2	△ 0	+0	+0	△ 1		△ 0	△ 0	+0	△ 3
欧州	△ 6	+1	△ 1	+0	△ 4		+0	△ 0	+1	△ 9
アジア	32	+15	△ 5	+2	△ 5		△ 1	△ 2	△ 5	32
連結消去	3	△ 0								2

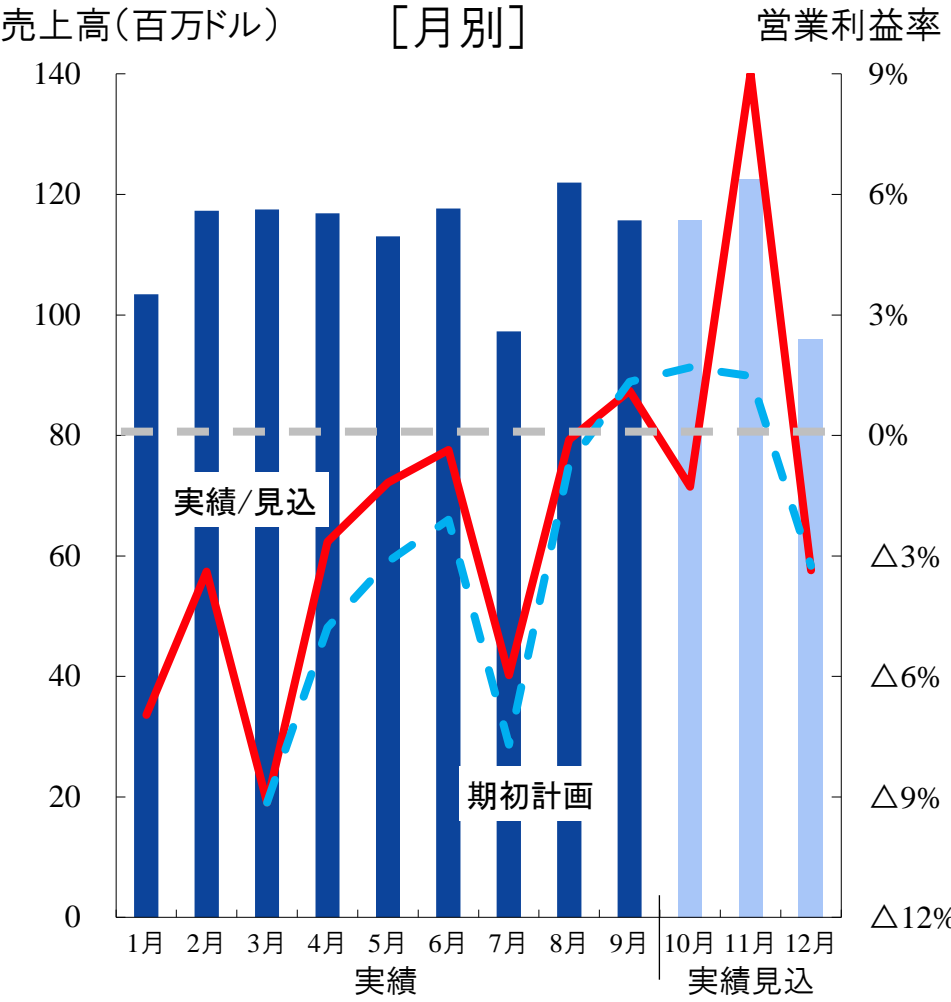
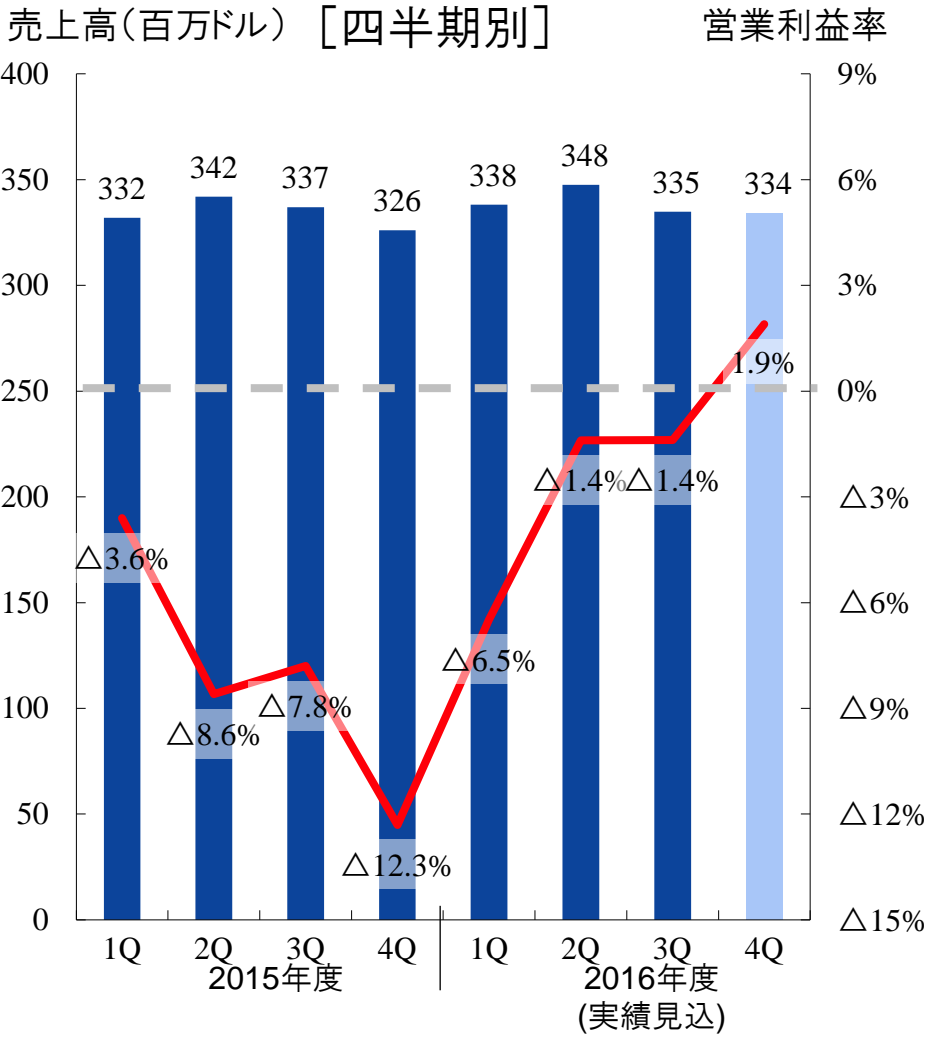
*1 緊急輸送費+21億円: 対前年同期ABCS+18、ABE+1、ABG+2、コンサル費用△19億円

*2 経費には開発費用含み

ABCS: 米国サウスカロライナ州コロビア工場、ABE: 米国ケンタッキー州エリザベスタウン工場、ABG: 米国ケンタッキー州グラスゴー工場

2017年3月期3Q: 米国の進捗状況

製品売上高・営業利益率推移〔四半期別/月別〕(米国会計基準)

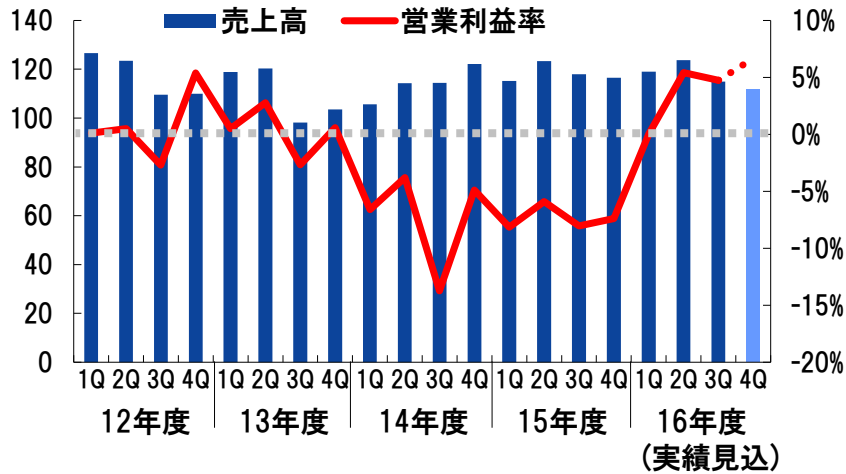


2017年3月期3Q: 米国の拠点別推移

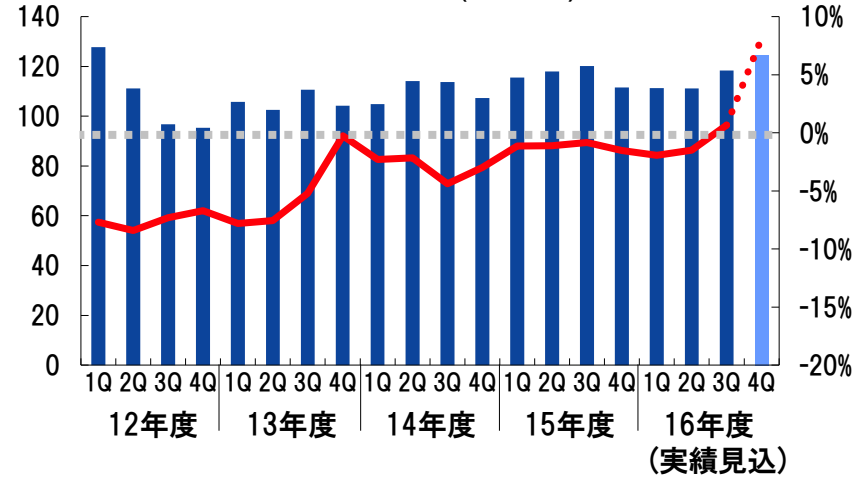
売上高・営業利益率推移(米国会計基準)

単位:百万ドル

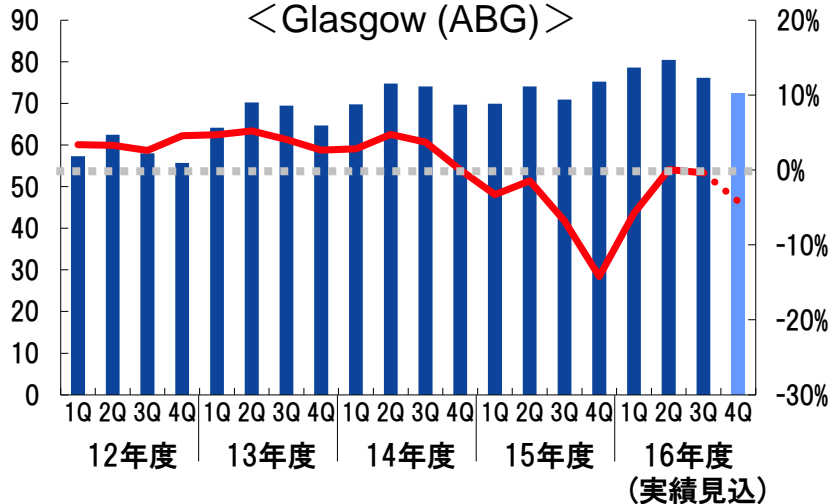
< Elizabethtown (ABE) >



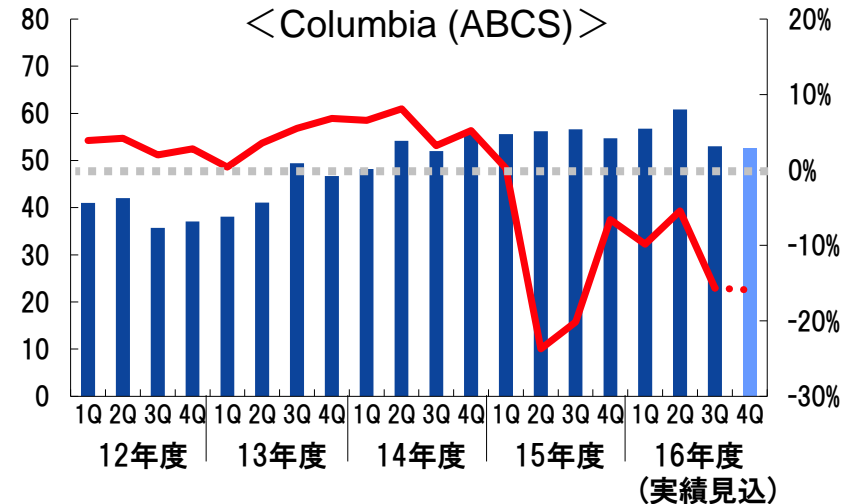
< Clarksville (ABCT) >



< Glasgow (ABG) >



< Columbia (ABCS) >



2017年3月期3Q: 米国の進捗状況(1月~12月)

米国の業績黒字化に向けた施策

	施策	具体的取り組み	進捗
1	組織・管理体制の抜本的改革	<u>現地主導によるマネジメント体制強化</u> <ul style="list-style-type: none"> 企業再建実績のあるCEOと経験豊富なCFOの採用 工場長(ABEおよびABG)の採用 プログラママネージャー(PM)の採用 	<ul style="list-style-type: none"> CEO(4月)、CFO(6月)、工場長(9月)、PM(8月)、生産部門長(9月)、調達門長(10月)採用 各部署/部門のキーパーソンを中心に組織を再編 就労環境を改善
2	生産性改善	<u>生産負荷低減による生産性改善</u> <ul style="list-style-type: none"> 一部生産品目を他生産拠点に移管 改善活動を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 日本およびタイへのブレーキパッドの一部生産移管完了 一部ラインを除き稼働日は3直7日から3直6日もしくは2直へと改善 生産工程の改善活動の推進や計画的な予防保全を実施
3	生産能力増強	<u>新規生産設備導入による生産能力増強</u> <ul style="list-style-type: none"> ABCSにアルミ鋳物の生産能力増強 ABGにアフターマーケット用パッドライン増設 	<ul style="list-style-type: none"> ABCS: 10月より稼働開始。更に生産能力の増強を予定 ABG: 17年2月に1ライン稼働予定 17年末1ライン稼働予定
4	販売価格と仕入れ価格の見直し	<u>収支構造改革</u>	<ul style="list-style-type: none"> 16年初めより販売価格および仕入れ価格の適正化も含めた見直しを開始 収支構造を改善、今後の業績に寄与させる

2017年3月期3Q: 営業利益から四半期純利益まで

営業利益は前年同期比で39億円増、四半期純利益は35億円改善

2016年3月期3Q

主な勘定

営業利益 $\Delta 23$

営業外収支 $\Delta 17$

受取配当金	+ 5
支払利息	$\Delta 12$
為替差損	$\Delta 3$
開業費	$\Delta 2$
その他(製品補償費 $\Delta 4$)	$\Delta 5$

経常利益 $\Delta 40$

特別損益 + 8

投資有価証券売却益	+ 33
減損損失	$\Delta 16$
リコール関連損失	$\Delta 8$

税前四半期純利益*1 $\Delta 32$

法人税・住民税・事業税	$\Delta 14$
法人税等調整額	$\Delta 8$
非支配株主当期利益	$\Delta 8$

四半期純利益*2 $\Delta 63$

2017年3月期3Q

主な勘定

単位:億円

営業利益 16

営業外収支 $\Delta 26$

受取配当金	+ 3
支払利息	$\Delta 10$
為替差損	$\Delta 10$
開業費	$\Delta 2$
その他(製品補償費 $\Delta 3$)	$\Delta 7$

経常利益 $\Delta 10$

特別損益 + 0

事業構造改善引当金戻入額	+2
固定資産売却損	$\Delta 2$

税前四半期純利益*1 $\Delta 10$

法人税・住民税・事業税	$\Delta 10$
法人税等調整額	$\Delta 1$
非支配株主当期利益	$\Delta 7$

四半期純利益*2 $\Delta 28$

*1:税金等調整前四半期純利益

*2: 親会社株主に帰属する四半期純利益

2017年3月期3Q: 貸借対照表(対前期末)

総資産1,927億円、負債1,691億円、純資産236億円

単位:億円

(資産の部)	16/3期末	17/3期 3Q末	前期末比	為替影響	(負債・純資産の部)	16/3期末	17/3期 3Q末	前期末比	為替影響
流動資産	841	774	△67	△82	流動負債	846	819	△26	△81
現金及び預金	204	166	△38	△6	仕入債務	290	277	△12	△39
売掛債権	368	368	△0	△45	有利子負債	383	408	26	△30
たな卸資産	188	185	△3	△26	その他	173	133	△40	△12
繰延税金資産	10	6	△5	△0	固定負債	897	872	△25	△36
その他	71	50	△21	△5	有利子負債	815	795	△20	△34
固定資産	1,203	1,153	△50	△90	その他	82	77	△5	△2
有形固定資産	1,020	947	△73	△87	負債合計	1,743	1,691	△52	△116
無形固定資産	27	21	△6	△2	純資産	301	236	△65	△56
投資有価証券	113	137	24	0	資本金	199	199	0	-
繰延税金資産	10	11	1	△0	資本剰余金	130	129	△0	-
その他	33	37	4	△1	利益剰余金	△194	△221	△28	-
総資産	2,044	1,927	△117	△173	その他	166	128	△37	△56
					負債・純資産	2,044	1,927	△117	△173

為替 USD: 120.6⇒101.1、EUR: 127.7⇒122.7、GBP: 161.9⇒143.0、CNY: 18.4⇒15.1、THB: 3.3⇒2.9、IDR: 0.0088⇒0.0078

2017年3月期3Q: 研究開発費、設備投資/償却費

投資は新規立上げ・生産能力増強対応で計画比増加(74%の進捗)

研究開発費

単位: 億円

	16年3月期 3Q実績	17年3月期 3Q実績	17年3月期 通期計画
研究開発費	88	81	115

※製品の適用開発に関連する費用も含めております。

17年3月期3Q 先行開発案件

- ・電動ブレーキ
- ・次世代HP/HE用ブレーキ
- ・環境対応型摩擦材(銅フリー・耐熱摩擦材)
- ・インフラ&モビリティ用ブレーキ
- ・次世代ディスクブレーキ
- ・軽量化、低引摺り要素技術開発

設備投資・減価償却費

単位: 億円

	16年3月期 3Q実績	17年3月期 3Q実績	17年3月期 通期計画
設備投資	134	111	150
減価償却費	97	87	115

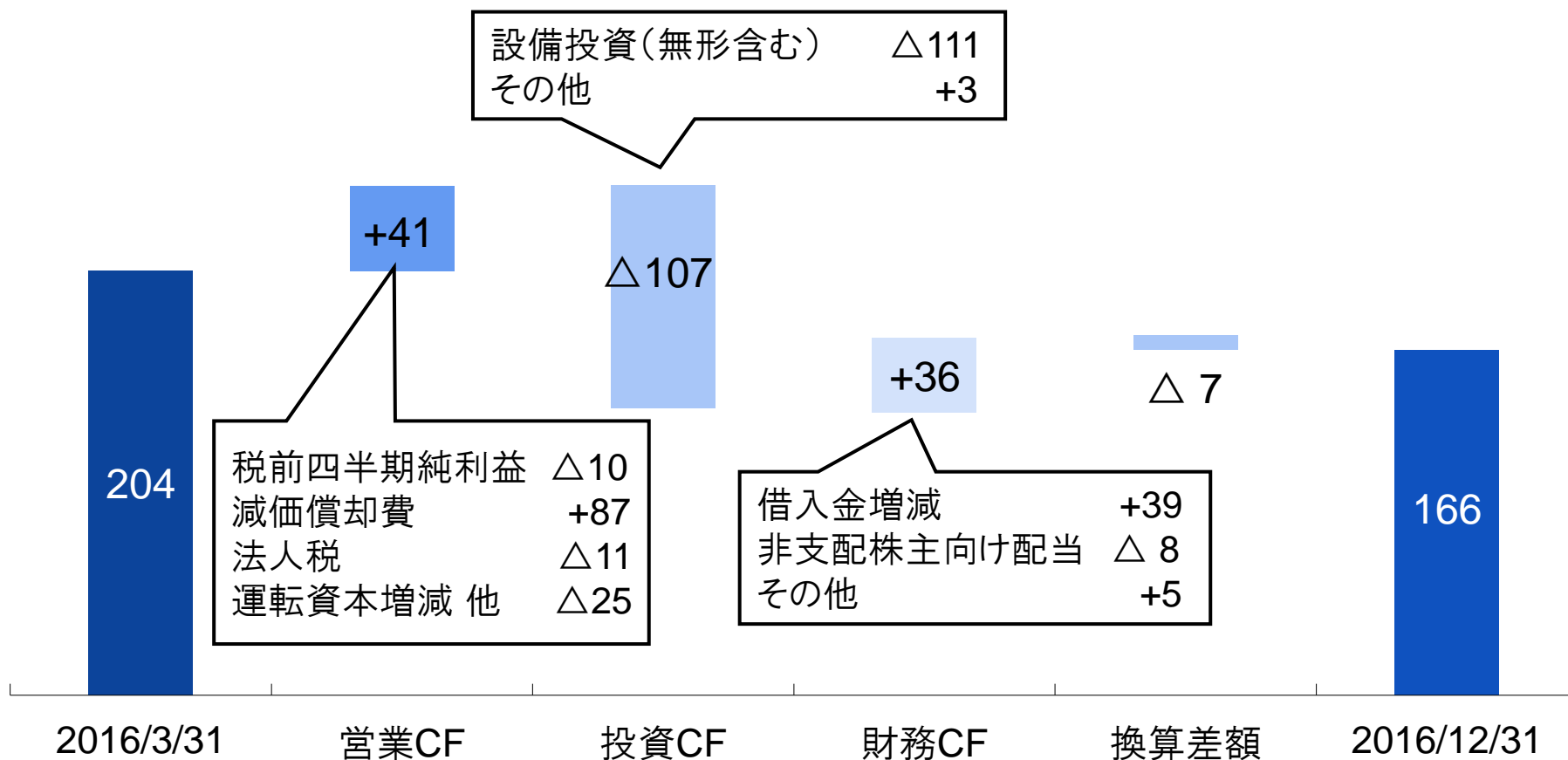
17年3月期3Q 主要設備投資案件

- ・HP生産設備
- ・生産能力の増強
- ・研究開発設備・インフラ
- ・次期モデル対応

2017年3月期3Q: キャッシュ・フロー

営業CF +41億円、投資CF△107億円、財務CF +36億円

単位:億円

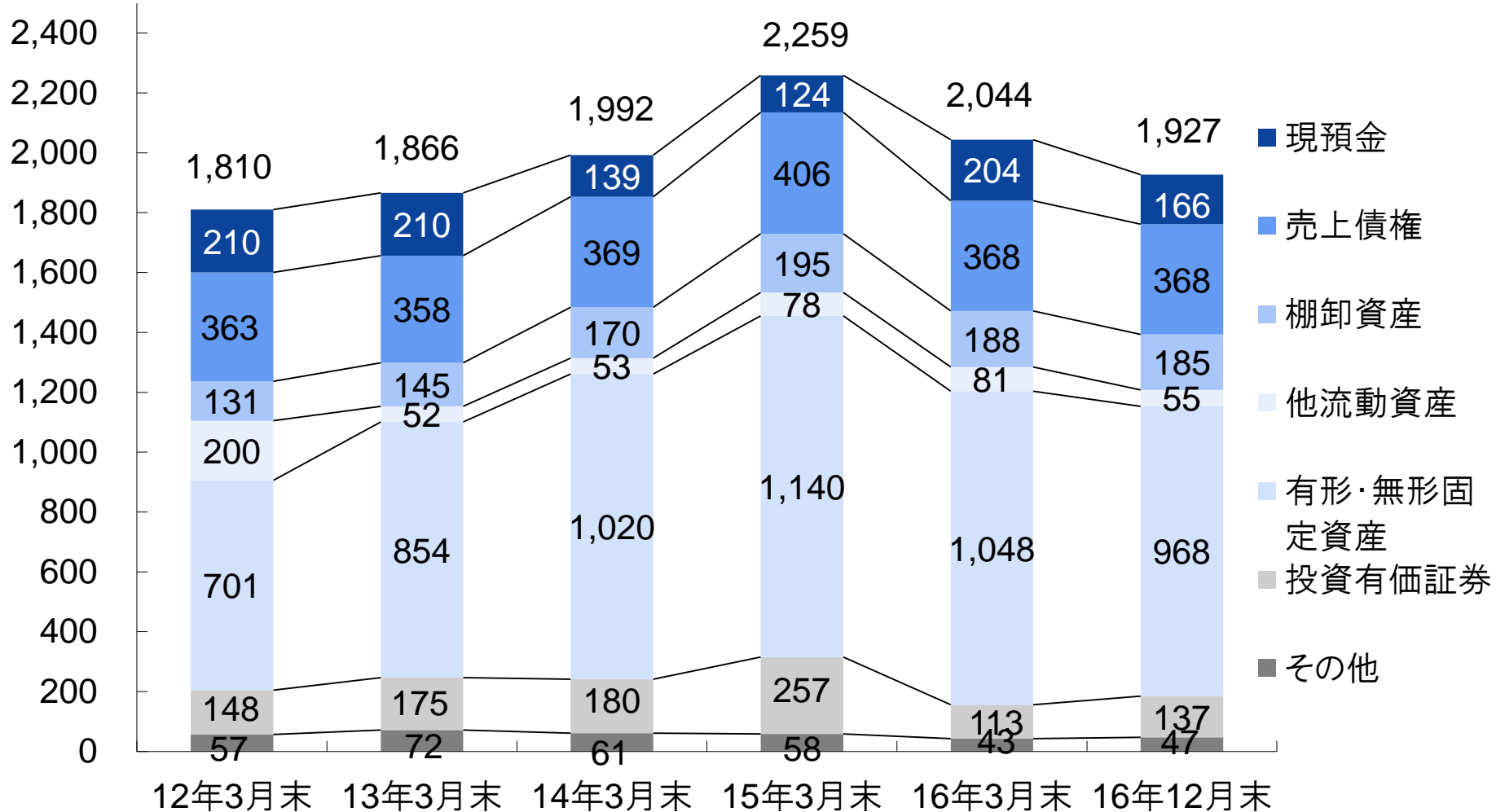


添付資料

(参考1) 貸借対照表

資産の部：投資有価証券、その他を除き減少

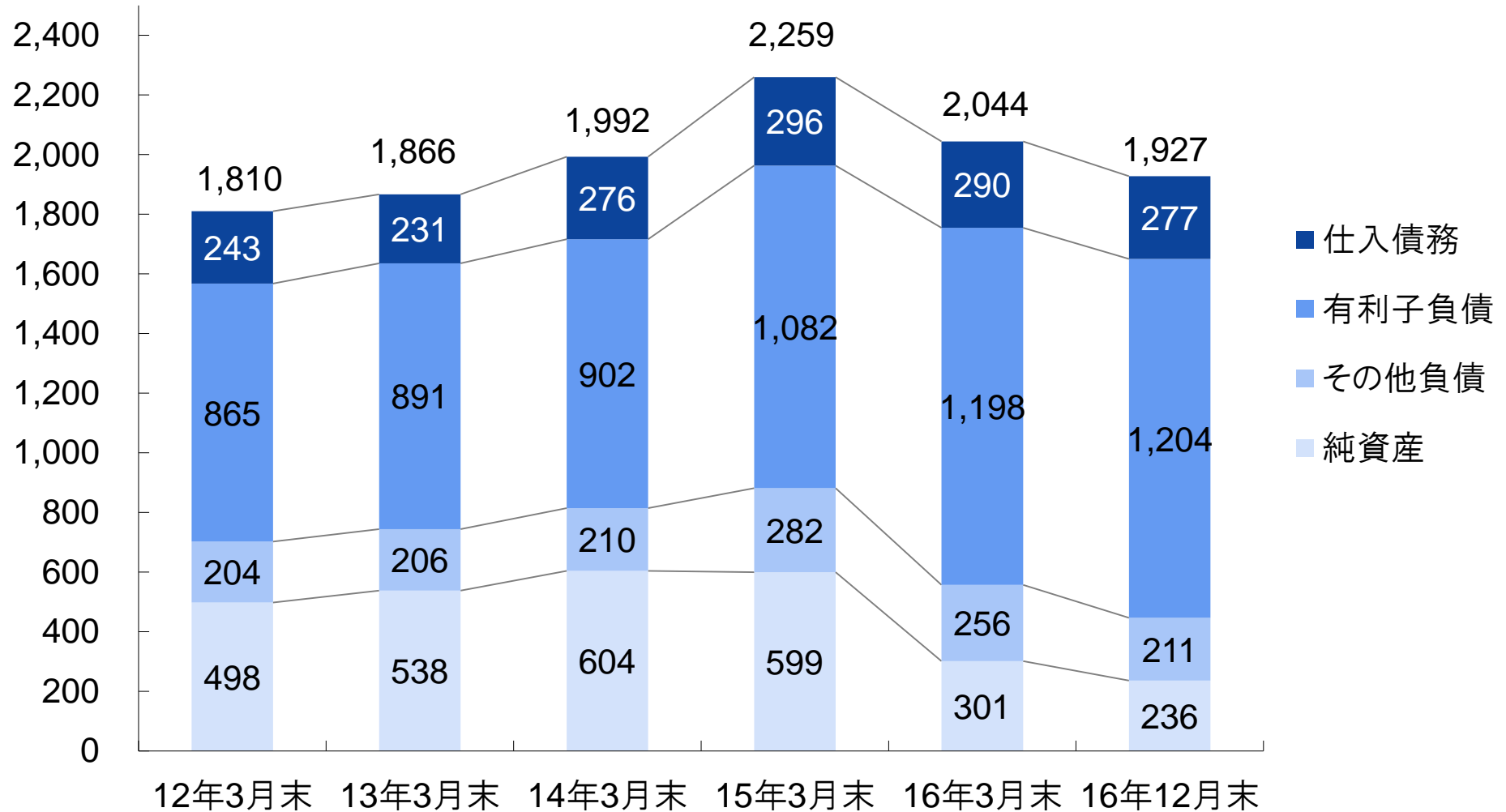
単位：億円



(参考2) 貸借対照表

負債・純資産の部：有利子負債を除き減少

単位：億円

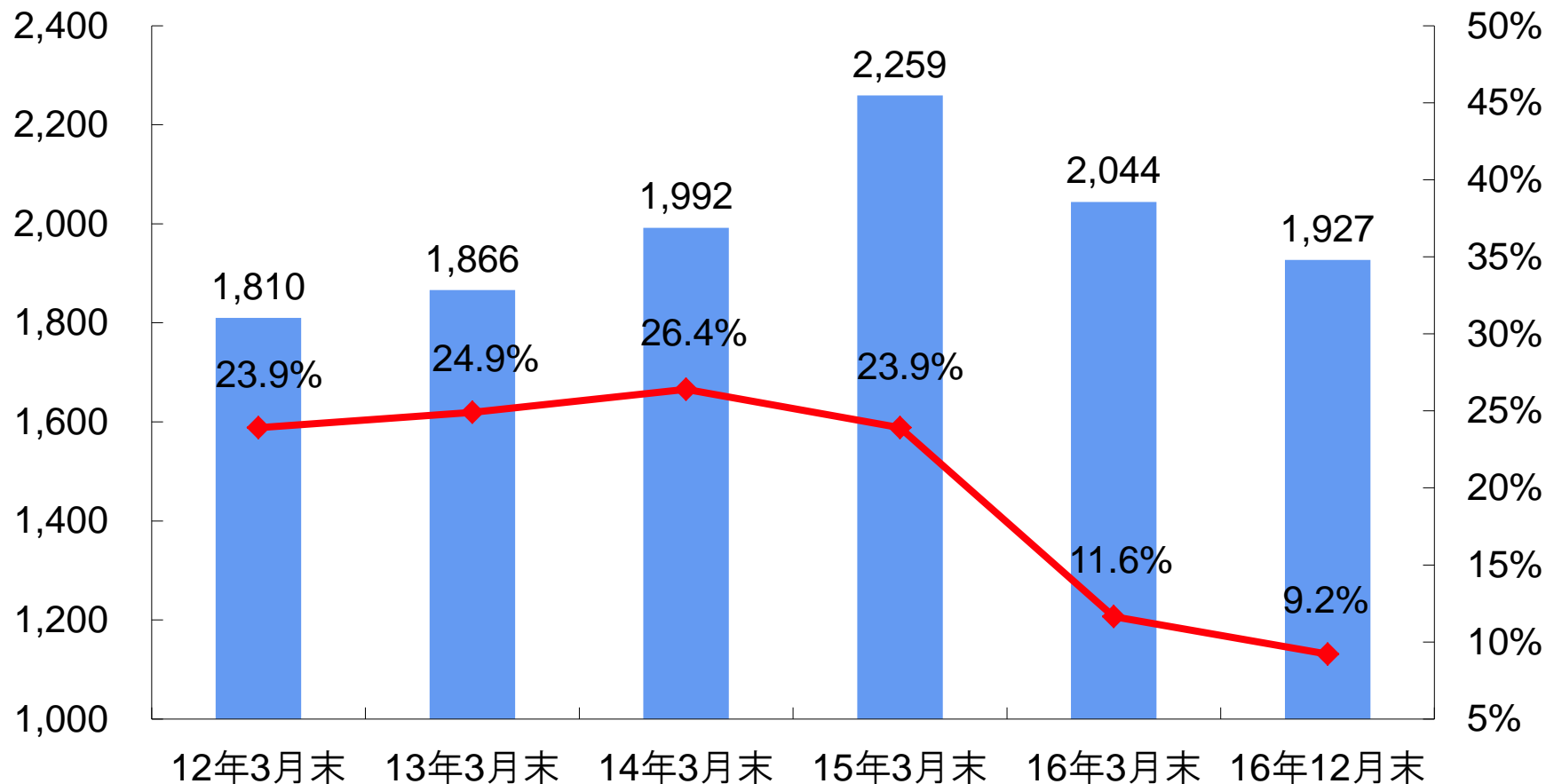


(参考3) 総資産/自己資本比率

四半期純損失等により自己資本比率は9.2%に低下

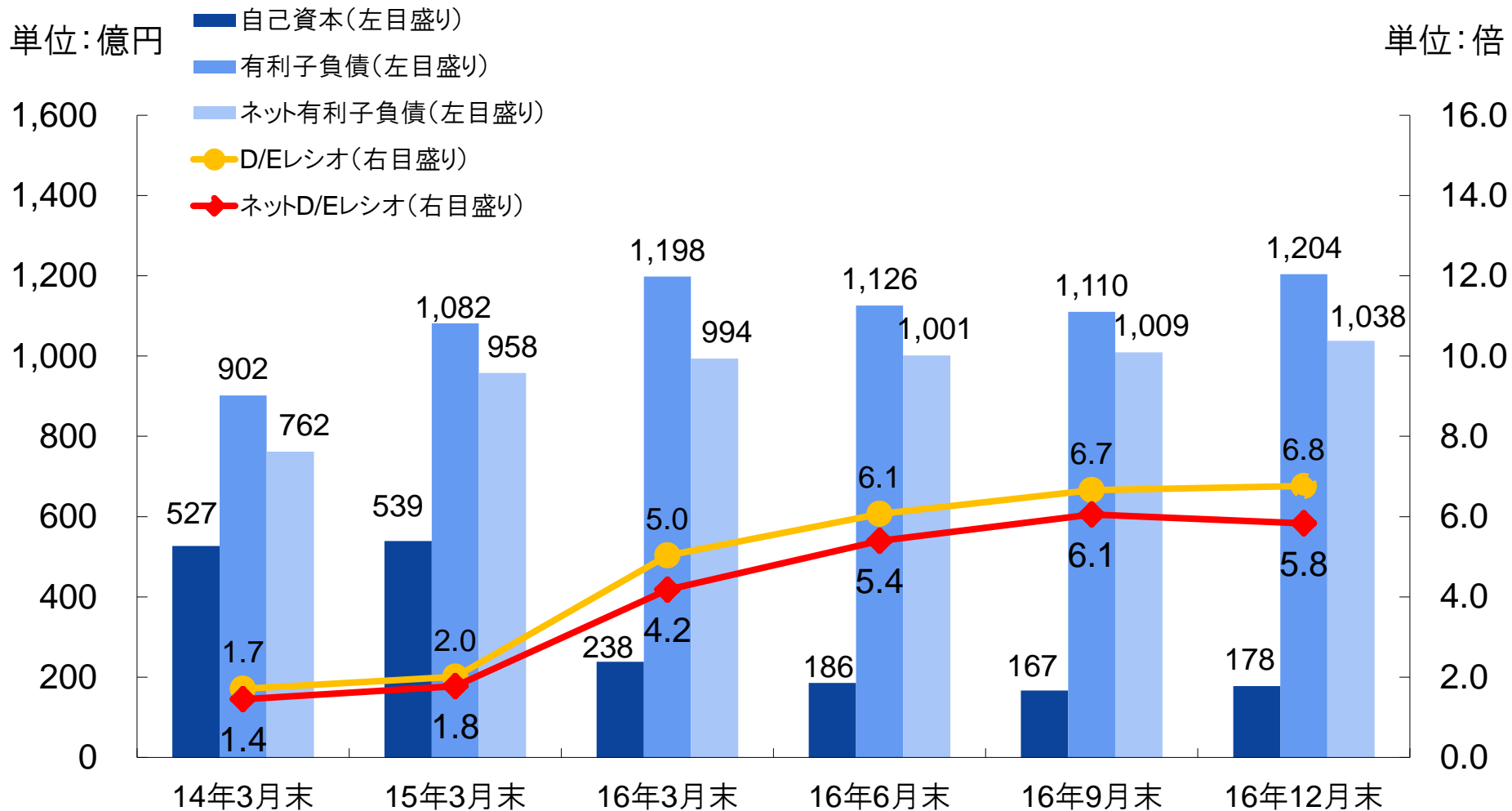
単位: 億円

■ 総資産(左目盛り)
◆ 自己資本比率(右目盛り)



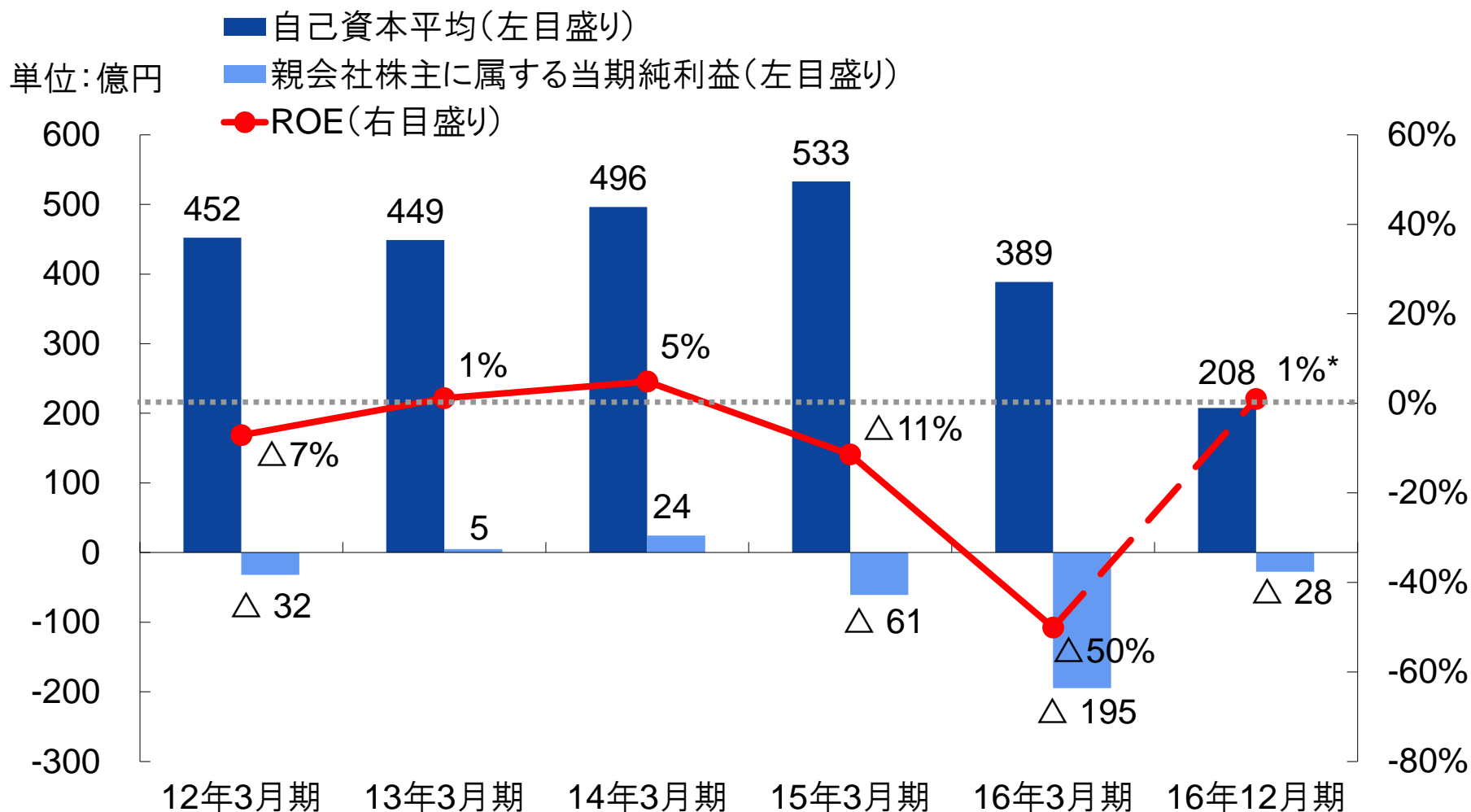
(参考4) 自己資本/有利子負債の推移

自己資本の減少でネットD/Eレシオは5.8倍に



(参考5) 自己資本利益率ROEの推移

ROEは改善傾向



*16年12月期ROEは、17年3月期親会社株主に帰属する当期純利益の通期業績予想2億円を基に計算しております。

業績見込み等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいた予測であり、実際の業績は当社グループをとりまく経営環境の変化、市場の動向、為替の変動等の様々な要因によりこれらの記述とは大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。